

平成30年度京都丹波スマート環境学習の御案内

● 京都府南丹保健所が提案するICT環境学習

ICTを活用した環境学習プログラム（以下「プログラム」という。）を通じて、子ども達の自然に対する豊かな感受性や環境に対する関心を育み、「森の京都」の豊かな自然を守り、自ら行動できる人材育成を目指す。

プログラムは管内の小学生（5・6年生）30人程度が、子ども環境会議と3回の課外学習等を体験
また、管内小学校に環境学習を提案して、作成したプログラムに基づくモデル授業を展開

● ICT環境学習の狙いと進め方

① 子ども環境会議の開催

- ・子ども達が学びたいことを自由に発想できる仕組みを導入
→ ワークショップ形式で興味のある環境分野（例：自然環境、廃棄物等）からテーマ決定（ファシリテーターが議論を活性化）
- ・テーマ抽出のプロセスを通じて発想する力、アイデアを具体化する力、発信する力、協調する力を養う

② 環境学習プログラム作成

- ・管内の大学、NPO、企業等が協働し、提案のあったテーマについてプログラムを作成
- ・IT企業から借用したタブレットを使用してプログラムで活用

③ 環境学習プログラム実施

- ・プログラムに参加した子ども達が、科学的な視点や考え方を学び、新たな知見を得る喜びや、体験活動を通じて自然に対する豊かな感受性や環境に対する関心を育む
- ・主要駅（例：亀岡駅、園部駅等）等からバスで学習拠点まで移動

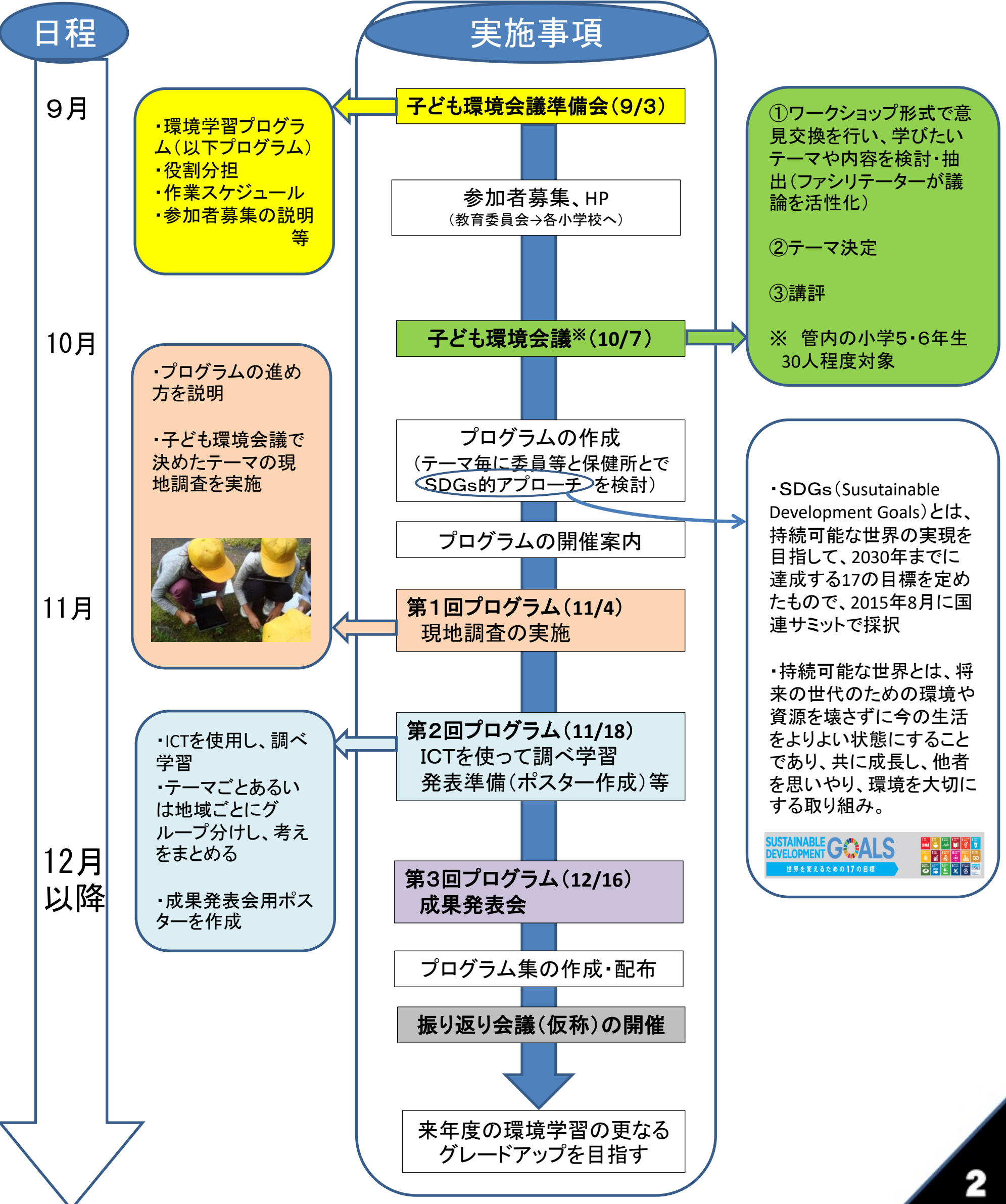
● ICT環境学習の推進体制

ICT環境学習を推進

京都丹波スマート環境教育推進プラットフォーム

（学識経験者、非営利組織（NPO）、民間企業、学校現場の経験者、行政機関 他で構成）

京都丹波スマート環境学習の進め方

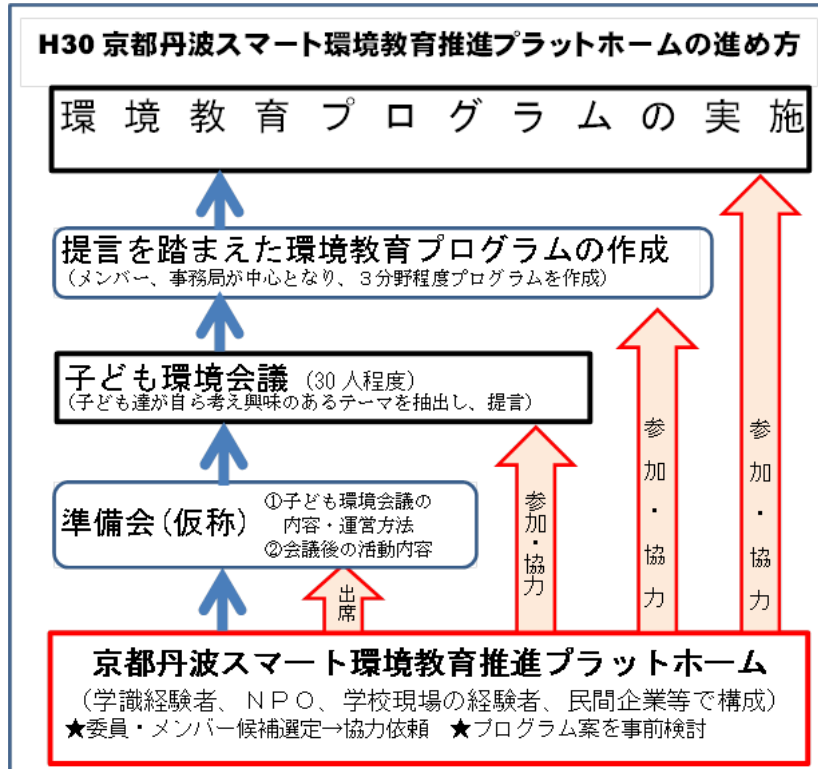


●京都丹波スマート環境教育推進プラットフォームの目指すもの

「森の京都」の豊かな自然を守り、京都丹波地域の時代の子ども達に繋げていくため、プラットフォームで産学公が連携し、環境学習の支援を行い、ICT を活用した環境教育プログラムを通じて、子ども達が「自ら調べる力」「自分の考えを相手に伝える力」を養い、自ら行動できる人材の育成を目指す。

●プラットフォームへの参加のお願い

- ・大学、NPO、企業…委員又はメンバーとして会議の出席やプログラム作成・実施への協力
- ・大学生…メンバーとして会議への出席やプログラム作成及び実施への協力
- ・教育委員会…委員又はメンバーとして会議出席やプログラム作成・実施への協力各小学校を通じた子ども達への案内



● 29年度までの取組み

平成18年度から地球温暖化をテーマに管内小学校向けに実施している未来っ子環境スクールを拡充して、平成29年度に産学公が連携し、継続的な学習支援を行うことを目的に京都丹波スマート環境教育推進プラットフォームを設置し、自然環境をテーマ※にモデル授業を展開した。

(※植物やアリの分布をタブレットでマッピングし、種類の違いから考える生育環境の違いについて考察・発表)

